

広島大学の知に触れる情報誌

August 08
2022

HU-plus

Hiroshima University Magazine vol.19



世界に誇る広大の生物研究!

【CROSS TALK+】

自分の意志で人生を拓く。若い世代は積極的に意見の発信を。

産婦人科医・タレント 丸田 佳奈氏 × 広島大学 学長 越智 光夫

【特集】世界に挑む広大 #2

未知なる自然を探究せよ



Message from President



チーム広大の絆を世界へ

広島大学の新たな海外同窓会組織「広島大学校友会インドネシアチャプター」の設立記念行事が、2022年5月28日にジャカルタ市内で開催されました。私も佐藤利行理事・副学長(平和・基金・アジア担当)、金子慎治理事・副学長(グローバル化担当)、田中純子理事・副学長(震地区・教員人事・広報担当)や教職員とともに出席しました。

来場した約100人に加え、インドネシア各地から50人を超える人がオンラインで参加するなど、2時間におよぶにぎやかな集いとなりました。インドネシア社会で活躍されている皆さんが、同窓生としての誇りを強く持っておられることは頼もしい限りです。会場では現在の大学の様子がビデオで紹介され、懐かしそうに思い出を語り合う光景が見られました。

本学特別顧問で日本・インドネシア両国関係の拡大強化に尽くされているギナンジャール・カルタサスマ氏をはじめ、共に本学で博士号を取得したインドネシア国家研究イノベーション庁のラクサナ・トリ・ハンドコ長官とハサヌディン大学のフスニ・タンラ名誉教授の他、在インドネシア日本大使館の田村政美次席公使、インドネシア住友商事の辛島裕社長らもそろって駆け付けてくださいました。また前夜祭にはラフマツ・ゴベル国会副議長が出席されるなど、本同窓会組織に対する各界の熱い期待をひしひしと感じました。

グローバル化時代の同窓会は「同窓生同士の親睦と交流の場」とどまりません。インドネシアチャプターが目指すのは、産学官の積極的な連携による社会的課題の解決と新しい価値を創造するためのプ

ラットフォームの構築です。4月から医療関連のグローバル共同研究講座がスタートし、インドネシア医療でのデータ利活用の共同研究を進めています。現地では広島大学の専門家が医療行為を行うこととなりますが、本学への留学経験がある保健省のアブドゥル・カディール次官が出張先のドイツからメールでお墨付きをくださるなど、卒業生に大変お世話になりました。

インドネシアは世界の中でも新興国とみられているかもしれませんが、若い人々が多く、街にはエネルギーが満ち溢れ、日本が失おうとしている爆発力や発展性が強く感じられます。中国に対しても数十年前までは同様の見方であったと思いますが、あっという間にGDPも科学力も抜き去られました。今はまだインドネシアは日本を見てくれています。今こそインドネシアや他の東南アジア諸国と科学研究、教育に関するフラットなタッグを緊密に組み、未来へのステップにすべきと考えています。

コロナ禍の逆境にあっても、広島大学ではインドネシアを含む75カ国・地域の1,750人の留学生が学んでいます。同窓生を表す英語alumniは、育つことを意味するラテン語のalescereに由来するといわれています。今回の行事に参加し、そのことを実感しました。

広島大学はステークホルダー(企業・関係機関)と連携し、協働と共創を通じて国際社会に貢献する同窓会活動のモデルを示していきます。政府機関や大学、企業など各界で活躍している広島大学卒業生の「チーム広大」の絆が大きく育ち、世界へ広がることを願っています。

越智光夫

Spreading the bonds of 'Team HIRODAI' to the world

The inaugural event of the new overseas alumni organization of Hiroshima University [HU], 'the Indonesia Chapter, Hiroshima University Alumni Association Indonesia', was held in Jakarta on 28 May 2022. I attended the event together with Dr. Toshiyuki Sato, Executive Vice President (in charge of Peacebuilding, Funding and Asia Region); Dr. Shinji Kaneko, Executive Vice President (in charge of Global Initiatives); Dr. Junko Tanaka, Executive Vice President (in charge of the Kasumi Campus, Faculty Personnel and Public Relations), and other HU faculty members.

In addition to the approximately 100 people who came to the event, about 50 people from various parts of Indonesia participated online, making it a lively gathering that lasted about two hours. It is encouraging to see those who are active in Indonesian society have a strong sense of pride as alumni. At the venue, a video clip featuring the latest HU developments was played; Many participants at the venue were seen watching the clip, conversing nostalgically about their HU days.

Invited guests to the ceremonial event included Dr. Ginandjar Kartasasmita, an HU Special Advisor dedicated to expanding and strengthening bilateral relations between Japan and Indonesia; Dr. Laksana Tri Handoko, Head of the National Research and Innovation Agency of Indonesia; Professor Emeritus Andi Husni Tanra of Hasanuddin University — both of whom received their PhDs from HU; Mr. Masami Tamura, Minister of the Embassy of Japan in Indonesia; and Mr. Hiroshi Karashima, President Director, PT. Sumitomo Indonesia. Mr. Rachmat Gobel, Deputy Speaker of the People's Representative Council, also attended the eve festival of the ceremonial event. It was evident that everybody there had high hopes for our alumni associations.

In the age of globalization, alumni associations are not limited to being 'a place for friendship and exchange among alumni'. The Indonesian Chapter aims to build a platform for solving social issues and creating new value through active collaboration between industry, academia and government. In

April, the Global Joint Research Laboratory in Healthcare was launched, undertaking joint research on the use of data in Indonesian healthcare. The joint research presupposes that medical experts from HU provide medical treatment in Indonesia. For that, I am very grateful to our alumni for their support, including that from Dr. Abdul Kadir, the General Director of Directorate General of Health Services at Indonesia's Ministry of Health. Dr. Kadir once studied at HU, and he went out of his way to send an email from a business trip in Germany, which granted permission to the aforementioned medical experts.

Although some may still see Indonesia as one of the developing countries in the world, you now come across a large number of young people in the cities there full of energy. In addition, the country on the whole seems to have a strong sense of explosive dynamism and prospect for future growth, which Japan has been losing in recent years. I think that a few decades ago people's general perception of China was probably similar to what they have for Indonesia now, but China quickly overtook Japan in terms of the level of GDP and scientific research power. Fortunately for us, Indonesia still looks to Japan. I believe that now is the time to work closely with Indonesia and other Southeast Asian countries in the areas of science and education, with a view to building a path to the future.

Despite the adversity of the COVID-19 pandemic, HU still has 1,750 international students from 75 countries and regions, including Indonesia. The English word alumni is said to have derived from the Latin word *alescere*, meaning to *nurture*. This event has epitomized just that.

By collaborating with its stakeholders [companies and relevant institutions], HU intends to demonstrate a model of alumni activities that contribute to international society through cooperation and co-creation. May the bonds of the 'Team HIRODAI' alumni, active in fields such as government agencies, universities and companies, be further enhanced to grow and spread more in the world.

越智光夫

新型コロナウイルス感染予防に注意を払い、撮影時のみマスクを外しています。

【Hiroshima University】の魅力や情報をあなたに“プラス(+)”、【HU】とあなたが“つながる(+)”という願いを込めて。



研究に用いられる動植物をはじめ、さまざまな生物に出会える広島大学。生物たちの神秘の世界をのぞいてみませんか。

CONTENTS

- 01 散詩語録
- 03 CROSS TALK+
産婦人科医・タレント
丸田 佳奈氏 ×
広島大学 学長
越智 光夫
- 07 特集 世界に挑む広大 #2
未知なる自然を探究せよ
- 11 持続可能な未来のヒント
広大 もったいなれっじ
- 13 AERAが書く 研究者の素顔
- 15 HIRODAI GLOBAL
- 19 こちら
グローバルキャリアデザインセンター!
- 20 HIRO-DAI HEROES
- 21 卒業生インタビュー 私も広大です
- 23 HU-style
- 25 HU TOPICS
- 27 キャンパスNOW
- 28 読者アンケート・プレゼント
- 29 広島大学への寄附・基金

広島大学SNS



Instagramでキャンパスの日常を配信中



❑ 留年や休学、摂食障害を経験

越智 丸田さんは北海道網走市のご出身です。どのような幼少期を過ごされましたか。

丸田 母がいわゆる教育ママだったので、小学校の頃からしっかり勉強していました。

越智 努力のこいもあって、日本大学の医学部に進学されました。留年や休学を経験されたということですが、理由を伺ってもよろしいですか。



丸田 高校までの暗記に頼った勉強方法が大学では通用せず、医学部の勉強についていけなくなりました。精神的に不安定に

なって、2年生と6年生を2回ずつ経験しました。**越智** 長い人生の中で、誰しも壁にぶつかる時があります。後になって振り返れば「もっとうまくやれたのに」と思うことでも、その時はコツが分からないものです。留年というマイナスのイメージがありますが、つまずいた経験は、やがて糧になったのではありませんか。

丸田 そうですね。病気のため診療に訪れる患者さんの中にも、私と同じように勉強でつまずいた医学部や薬学部の学生がいます。社会からはエリートコースと見られがちですが、彼女たちもさまざまな悩みを抱えているのです。

越智 丸田さんは患者さんの精神面のフォローもされているのですね。なぜ産婦人科医になろうと思われたのですか。

丸田 子どもの頃に医療ドラマを見てあこが

れたのと、自分が摂食障害になって月経が止まり、産婦人科に通院したのがきっかけです。

越智 摂食障害の原因は何だったのでしょうか。
丸田 過度なダイエットです。当時流行していたミニスカートを着るためにダイエットをしていたのですが、そのうち痩せることだけが目的になって摂食障害に陥りました。「食べたいのに食べられない」と食にとらわれていたのが、大学で演劇やダンスを始めていろいろなことに興味を持たせたおかげで、普通に食事ができるようになりました。

越智 モデルや芸能人を見て、痩せていることが美しいというメッセージを受け取ってしまう子どももいるでしょう。多様性の尊重が叫ばれている中で、そのような風潮は変えていかなければいけませんね。

❑ 興味あることに自ら挑む

越智 大学から演劇やダンスを始められたのは、もともと芸能界に興味があったからですか。
丸田 はい、子どもの頃から女優にあこがれていて、大学の部活で挑戦してみようと思ったのです。役作りのために新選組について調べたり、幕末の武士の覚悟に思いを巡らせたりしたのは良い思い出です。

越智 大学4年生の時にミス日本に応募されました。芸能活動を視野に入れてのことでしょうか。

丸田 芸能界に入りたかったわけではなく、自分がどこまで通用するのか試してみたいという気持ちで臨みました。

越智 絶対に賞を取りたいというわけではなかったのですね。見事「ミス日本ネイチャー賞」を受賞され、今や、子育て・産婦人科医・バラエティー番組のコメンテーターとマルチに活躍されています。

丸田 興味のあることはできる限りチャレンジしたいのです。時には大変なこともあります。赤ちゃんを取り上げてお母さんから感謝の言葉をいただいたり、番組での自分のコメントに反響があったりすると、達成感があります。

越智 丸田さんといえば切れのあるコメントが印象的です。時には批判の声も届くと思いますが、どのように受け止めていますか。

丸田 批判の声に一喜一憂していると仕事になりませんし、自分の思ったことを発言できなくなります。万が一、自分の発言が原因で芸能界から消えるなら、それも仕方ないと考えています。

越智 芯が強い方なのですね。人生の岐路では、自ら進む道を決断されてきたのでしょうか。

丸田 はい。両親は内心、私の医学部受験に反対だったと思います。しかし、私はどうしても医学部に入りたかったので、回り道もしましたが、自分の意志で進路を決めてきました。

越智 医師への思いが強かったと。広島大学にも医学部、歯学部、薬学部があり、医療の道を志す学生が日々精進しています。医療系学部がそろそろ霞キャンパスでは、特色を生かして合同でチーム医療を学ぶ「早期合同体験学習」とい



ミス日本
ネイチャー賞の
トロフィー

産婦人科医・タレント
丸田 佳奈 まるたかな

北海道網走市出身。日本大学医学部医学科卒業。2007年度「ミス日本」。現在は千葉県のクリニックで、外来診療や分娩、手術を担当。現役医師の立場から、テレビやラジオ、雑誌等メディアを通じ、さまざまな医療情報を発信。また、政治や社会問題などの分野でも、積極的にコメントしている。

広島大学 学長
越智 光夫 おちみつお

1952年生まれ。愛媛県今治市出身。広島大学医学部卒業後、整形外科に入局。1995年島根医科大学教授。2002年広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授に就任。広島大学病院長を経て2015年から現職。2015年に紫綬褒章を受章。

自分の意志で人生を拓く。 若い世代は積極的に意見の発信を。

丸田 佳奈氏 (左)
産婦人科医・タレント

越智 光夫 (右)
広島大学 学長



丸田_中学校の校長先生からいただいた言葉に、「努力に勝る天才はなし」という名言があります。芸能界の方たちは、決して表に出ませんが、とても努力されています。どこの世界も才能だけではやっていけないということを肝に銘じて、私も努力し続けています。

う授業を行っています。とかく医師は閉鎖的な環境で仕事をする事が多いので、学生のうちに視野を広げてほしいと思っています。

丸田_学部垣根を超えて共に授業を受けられるのは素晴らしいと思います。実際の現場では看護師に威圧的な態度で接する医師もいるのですが、それではチーム医療はできません。

越智_その通りです。日本の女性医師の数は年々増えているものの、女性医師の比率は先進国の中で最も低いレベルにとどまっています。広島大学ではダイバーシティ研究センター

を設け、女性教員の比率を20%程度に引き上げる目標を達成しました。日本の男女共同参画や多様性に関してどうお考えですか。

丸田_私は目標を定めて女性比率を上げるという

取り組みには疑問があります。男女を問わず実力のある人を採用するという形でないと、将来その分野が伸びないと思います。

越智_そのような考え方も一理ありますね。いずれ実力のある人に置き換わっていくので、一つの目標を決めて女性の割合を増やす方法も悪くはないと、個人的には思います。

✕ もっと女性が声を上げる必要

越智_つらい時や苦しい時に大切にしている言葉はありますか？

や女性研究者・学生へのメッセージをお聞かせいただけますか。

丸田_産婦人科医の観点から言いますと、少子化対策にもっと注力する必要があります。現在は妊娠・出産に関する教育がまだ不十分。女性は、年齢が上がるにつれて妊娠・出産が難しくなり合併症が増えます。正しい知識を持って、早めに人生設計をしてほしいですね。また、仕事と育児を両立しやすい社会を実現するために、もっと女性が声を上げる必要があると考えています。

越智_丸田さんのご活躍も、社会に大きな影響を与えています。

丸田_ありがとうございます。平和な日本に満足して政治や未来に関心のない人が増えており、このままでは日本はだめになってしまいます。若い世代の皆さんに

は、SNSやYouTubeを通して積極的に意見を発信し、社会をより良く変えてもらいたいです。

越智_意見を積極的に述べることは重要です。本日はありがとうございました。



Plus な 広大

学長対談のテーマにちなんで、広島大学をもっとよく知るためのTOPICSを紹介。あなたにも社会にもプラスになる大学の取り組みや魅力をお届けします。

PLUS [Medical]

高度な医療人を養成する 霞キャンパス

広島大学霞キャンパスでは、医療の道を志す医学部、歯学部、薬学部の3学部6学科と大学院医系科学研究科の学生が勉学に励んでいます。学生たちはキャンパス内の広島大学病院等で臨床実習を行い、実際の現場での診療や患者さんとのコミュニケーションを学びます。



キャンパスの入り口にある八角錐のオブジェが目印です

薬学の発展を後押しする 薬用植物園

霞キャンパス内「薬用植物園」では、さまざまなハーブをはじめとする約160種の薬用植物が栽培・展示され、薬学教育・研究に活用されています。ぜひお立ち寄りいただき、「自然が生み出す薬物」に触れてみてください。 ※要事前連絡



PLUS [Women's Empowerment]

女性活躍の場を広げる 個人・団体に独自の賞を授与

女性活躍の場を広げるなど、自らが率先して女性の社会進出に貢献した個人・団体を顕彰するため、広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」を設けています。第8回メタセコイア賞は、東広島市で日本酒造りに携わる女性杜氏の今田美穂さんが受賞。6月27日に授賞式および記念講演会を開催しました。



第8回メタセコイア賞受賞の女性杜氏今田美穂氏

男女共同参画を推進する 学内の取り組み

誰もが性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる環境を目指す広島大学では、「男女共同参画推進室」を設置しています。学内保育施設や学童保育といった、仕事と家庭の両立支援をはじめ、学生・教職員への意識啓発なども行っています。



PLUS [Theater]

ファンタジーから現代口語まで 幅広く挑む 広島大学演劇団

広島大学を拠点に演劇活動を行っているのが、「広島大学演劇団」。公演ごとに劇団を立ち上げるプロデュース式の公演形態を採用しているため、ファンタジー劇や現代口語劇など多様な演劇を行えます。団員が公演ごとにいろいろな部署を経験できることも特徴です。



大学から演劇を始めた人も、ワークショップを通じて舞台の知識を身に付けられます

約3年ぶりに 有観客公演を実施

3月の卒業公演には、2日間で計100人のお客さまにご来場いただきました。入団以来初めての有観客公演を経験し、対面で演劇をする楽しさを実感するとともに、お客さまに向けた作品づくりを意識するようになりました。

2022年度演劇団代表(生物生産学部 3年) 中嶋 悠多さん



特集 | 世界に挑む広大 #2

未知なる 自然を探究せよ

東京ドーム約53個分の敷地面積を誇り、
夏には青々とした緑に囲まれる東広島キャンパス。
自然豊かな学び舎には、
100種類の絶滅危惧種を含むさまざまな動植物が
生き生きと暮らしています。
また、キャンパスでは生き物を対象とした独自の研究が行われ、
そこで得られた知見は医療・産業・教育などの分野で活用されています。
広島大学は教育・研究資源の宝庫であり、
世界の第一線を走る研究拠点でもあるのです。
今回の特集では、
広島大学の自然にまつわる研究について
その奥深さと幅広さに迫ります。

日本鶏の神秘を解明し、遺伝子研究の未来を切り拓く

見た目よし味も良しの エリート、日本鶏

美しい羽や個性的な鳴き声を持つ観賞用の品種、たかましい肉体を持つ闘鶏用の品種など、古来より日本ではユニークな鶏が多く生み出されました。繁殖力の低さから個体数が限られる品種も多く、今では全体約50種のうち半数以上が国の天然記念物に指定されています。私は日本鶏をはじめ、さまざまな鶏のDNAを分析し、身体的性質との関係性を研究しています。

実は日本鶏は味も絶品。2020年には、広島大学で飼育する30種以上の日本鶏の分析データを生かし、おいしくて生産性も良い食用日本鶏「広大鶏」の開発に成功しました。

広島大学が飼育する特別天然記念物「土佐のオナガドリ」



遺伝子をひも解き 鶏の可能性を最大限に

私の専門は「QTL解析」を使った遺伝子研究。QTL解析とは、生物の体形や成長速度などを決める「量的形質遺伝子座」を特定する研究手法のことです。飼育環境などの外的要因に左右されない、生物本来の個体値を求められるため、効率的に品種改良を行えます。

そしてこの研究は医薬品の開発などにも応用できます。例えば、尾羽が一伸び続ける「土佐のオナガドリ」の遺伝子を分析すれば、新しい発毛剤の開発に貢献できるでしょう。唯一無二の性質を形作る日本鶏の遺伝子はまさに可能性の宝庫。今後は、これまで得た知見をさらに幅広く展開していきたいです。



開発に成功した「広大鶏」

Profile



都築 政起 教授
大学院統合生命科学研究所
日本鶏資源開発プロジェクト研究センター
専門分野は家禽(ニワトリ、ウズラ)における遺伝育種学的研究。

遺伝子と生物の形、その関係性を探る

生物の見た目や機能が 複雑多様化した起源を探る

生物の形が多様化した仕組みの解明を目指しています。脊椎動物は、進化の過程で遺伝子のセットが倍に増える「ゲノム重複」によって、新たに体の機能や形を獲得していったと考えられます。どちらか一方の遺伝子が元の機能を失っても、もう一方が役割を補えるようになったからです。私は、脊椎動物の遠い祖先に近いナメクジウオと、ヒトとほとんど同じ遺伝子セットをもつツメガエルを比較し、研究しています。さらに現在、遺伝子が発現する場所と時間を決める仕組み(遺伝子発現制御機構)を調べて、脊椎動物の見た目や体の機能に違いが生まれるメカニズムを明らかにしようとしています。

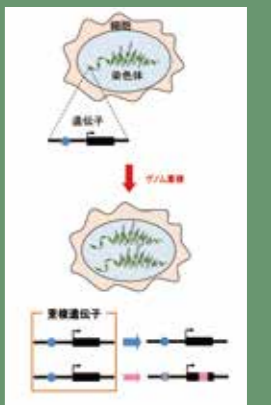
両生類がもつ再生能力を追究し 社会に役立てる

前述の研究以前は、眼の形成について研究しており、カエルやイモリなどの両生類に備わった眼(レンズ)を再生する能力にも着目していました。再生は、細胞の核にある染色体が酵素の作用で部分的にほだけ、受精卵から体が作られるときに使われた遺伝子が再び目覚めて働くことで起こります。このメカニズムが明らかになれば、再生能力が低い私たちヒトの体組織や臓器の再生も夢ではありません。以前発見した、その変異が眼疾患の原因となる遺伝子は、すでに治療法の開発に応用されています。私の研究は生物学や医学の根本的な問題をテーマにしているため、より広い範囲に影響を与えられると考えています。



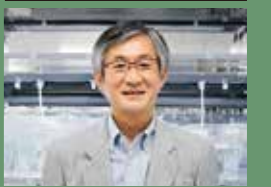
ツメガエル

フシギガエル



片方の遺伝子が元の機能を維持しつつ、もう片方に突然変異が蓄積されたことで、多様性が生まれました

Profile



荻野 肇 教授
両生類研究センター
専門分野は進化発生生物学。

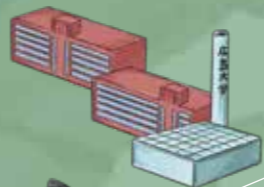
発見!キャンパス生物図鑑

HIROSHIMA NATURE RESEARCH MAP

古くから地域住民によって管理されてきた里山環境に位置する東広島キャンパス。夏には、キキョウやオミナエシ、サワギキョウ、ヒツジグサ（野生のスイレン）、絶滅危惧種であるヒメタヌキモなどが花を咲かせます。植物だけでなく、ホタルやハッチョウトンボ、国蝶のオオムラサキも生息。自然散策道「発見の小径」など、キャンパス中でさまざまな動植物を観察してみてください。



広島大学
東広島キャンパス
Hiroshima University
Higashi Hiroshima Campus



学術標本共同資料館

日本最大級のコケの標本庫

広島大学は、コケ研究において第一線を走るパイオニア。93年もの間蓄積されてきたコケ標本のうち、約65万点が学術標本共同資料館に保管されています。道端で見られる身近なコケから、熱帯地域で見られるキダチゴケや今では失われてしまった高層湿地のミズゴケ、南極観測隊員が採集したヤノウエノアカゴケまで、その種類は実にさまざま。コケは乾燥させることでコンパクトなA6サイズに収まり保管が簡易なうえ、観察するには水を含ませると元の姿に戻ります。これらの標本は分類学などの研究で用いられるだけでなく、コケが吸収した汚染物質を解析することで、大気環境の変化を明らかにする研究資料としても活用されます。



山口 富美夫 教授 大学院統合生命科学研究所

私は、日本南部の島しょ部や熱帯域のコケ（特にシラガゴケ属群）について研究しています。熱帯起源のコケ植物の多様性や種分化を明らかにするとともに、これまで蓄積されてきた標本を世界中の研究者が利用できるように管理し、後世に引き継ぐことが目標です。



水産実験所

(竹原ステーション)

世界有数の里海・瀬戸内海の自然を守る

広島県竹原市の海岸域は、絶滅危惧種が多く生息・渡来する「ハチの干潟」や140種以上の海藻類が生育する天然海岸が残る里海。竹原ステーションでは、その豊かな環境と充実した施設を生かしてさまざまな教育・研究活動が行われています。中でも代表的なものが、カブトガニの研究です。竹原の個体群は、その世界的分布の北限かつ東限にあたり、国際的にも貴重な研究対象。当施設では、遺伝的多様性や産卵などの豊富なデータを蓄積し、教育・研究を通じた保全活動に取り組んでいます。その他にも、養殖ノリの代替として期待されるフトモズクの試験養殖を通じて、地元産業にも貢献しています。国内外の教育・研究機関からも年間延べ約4千人の利用者が訪れる当施設。その資源を社会に開き、生物多様性の大切さを次世代に伝えます。



カブトガニ



総合博物館と東広島植物園が共同で書籍『東広島キャンパスの自然観察』を制作しました。写真やイラストとともに、約300種の動植物を紹介。里山の自然を楽しみながら、環境保全の大切さを学べる一冊です。

宮島
Miyajima

宮島自然植物実験所

宮島の貴重な自然を次世代へ。地域に根差した教育・研究活動

理学部附属自然植物園を前身とする宮島自然植物実験所では、宮島の自然環境を対象とした教育・研究活動に取り組んでいます。一般向けの野外観察会は通算600回以上開催され、2010年日本植物学会特別賞(教育)を受賞。生涯学習としてのニーズもあり、毎回多くの方に参加いただいています。百万都市近郊でありながら、自然植生が残る宮島。50年以上にわたる貴重な研究実績を生かして、自然災害や山火事後の植生の回復、外来植物の侵入・定着に関する研究にも取り組みます。



実験所のシンボルツリーであるカンコノキ

竹原
Takehara

両生類研究センター

両生類研究の要として、バイオリソースを提供

カエルやイモリ、ウーパールーパー(メキシコサンショウウオ)など、約66種・総数約3万匹を超える両生類を飼育する両生類研究センター。世界最大規模を誇る当センターでは、研究用のモデル生物の繁殖・飼育を行い、世界中の研究者へ提供しています。文部科学省が主導するナショナルバイオリソースプロジェクトでは、ネットアイツメガエルやアフリカツメガエル、イベリアトゲイモリを提供する中核拠点に選ばれており、研究データに個体差が生まれないよう“近交化”されたこれら3種の系統群を世界で唯一保持しています。



ネットアイツメガエル

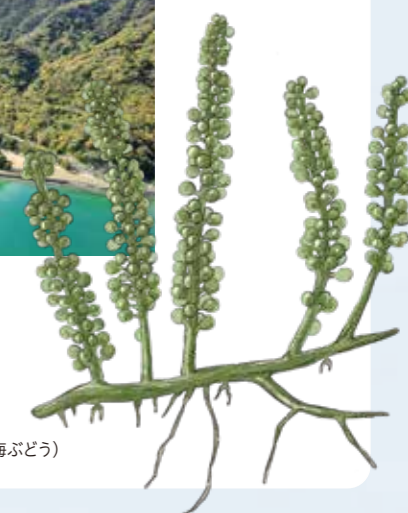
当センターがさまざまな種類の両生類を飼育できるのは、長年積み重ねてきたノウハウがあるから。両生類の飼育に欠かせない生餌(コオロギ)を安定的に供給するシステムや、難易度の高い交配や飼育に対応できるスタッフの技術が、しっかりと確立されているのです。

向島
Mukaishima

臨海実験所

海洋生物学の人材育成を担う進化発生学の研究拠点

臨海実験所は、広島大学の附属施設の中で最も歴史ある研究所です。尾道市向島の東岸に位置し、長年、瀬戸内海の生物を対象とした基礎研究や教育活動を担ってきました。ギボシムシやナイカイムチョウウズムシなどの遺伝子から脊索動物の進化過程を明らかにする進化発生学の研究に力を入れるほか、ウミウシやクビレズタを用いた研究も行っています。また、近年は文部科学省の教育関係共同利用拠点と科学技術振興機構「さくらサイエンスプログラム」の受入機関に採択。海洋生物学のプロフェッショナルを育成する拠点として国内外の学生に門戸を開き、最先端の研究成果を社会に還元しています。



クビレズタ(海ぶどう)

ギボシムシ

Hint 3

北米先住民の文学作品に描かれた核開発と搾取

松永 京子 准教授

PROFILE | まつなが きょうこ
大学院人間社会科学部研究科 欧米文学語学・言語学講座(アメリカ・イギリス文学分野)に所属。北米先住民文学の中で核や原爆などがどのように表現されているのかについて研究している。



ウラン採掘や核実験場が集中

皆さんは、原爆や核戦争をテーマとした小説や詩を読んだことはありますか。広島・長崎の原爆を題材としたものなどが世界中で多数発表されている中で、特に私は北米の先住民作家による「核文学」や「原爆文学」について研究しています。

核や原爆と北米先住民の間には実は深い関係があります。核エネルギーの材料となるウランの採掘が先住民の土地で行われていたり、核実験場や核廃棄物などが先住民の居住地に集中していたりするので。サイモン・J・オーティーズの『ファイト・バック』をはじめとする先住民文学は、経済的理由から核に関係する仕事に就かざるを得ず、人々やその土地が搾取されている現実を訴えています。また、先住民が放射能汚染のリスクを負担するのは、立場の弱い人々から搾取を行う植民地主義の典型的な形であると、問題の根深さも指摘しています。

現実を知ることが、社会を変えるきっかけに

核と北米先住民の関係のような、一般には知られていない問題を分かりやすく提示するのに効果的な役割を果たすのが文学作品です。日本には原子力発電を利用していますが、ウランの生産や核廃棄物の処理のために、誰がリスクを負い、どのような不平等が生み出されているのか、意識することはあるでしょうか。



かつてレイチェル・カーソンの『沈黙の春』が警鐘を鳴らしたことからアメリカでDDT*の使用が禁止されたように、文学作品が人々に新たな視点を与えることで、いずれ社会を変える力が

生まれるでしょう。北米先住民の核・原爆文学を研究していると、不平等をなくすこと、持続可能なまちづくりはつながっていると気付かれます。政治的・経済的な理由から原発や核廃棄物を受け入れることは、短期的には地域の成長につながりますが、不均衡な汚染のリスクを負担してしまうため持続可能なまちづくりは実現できません。全てのコミュニティから不平等な負担をなくすことこそが、長期的に住み続けられる社会の構築につながるのです。

*有機塩素系の殺虫剤の一種。



世界で初めて核実験が行われた「トリニティ・サイト」。近くには北米先住民の居住地が存在する

広大

もったいなれっじ

持続可能な未来のヒント

広島大学の研究室では、SDGsの達成に貢献するさまざまな知が日夜生まれています。読めば必ずためになる、こんなに魅力的な研究を知らないなんて、もったいない!



今回は、平和と平等、そしてそれを実現するまちづくりについて特集。世界中が求める大きな目標を達成するために私たちは何ができるのでしょうか。



原爆投下前後の広島市内の比較スケッチ。森富茂雄『消えた町 記憶をたどり』より

ヒロシマの記憶を未来へつなぐ意味とは

ファン デルドゥース 瑠璃 准教授

自分と他者の視点を分野横断的に分析

熱線で表面が泡状になった瓦や、溶けてねじれたガラス瓶、人影を写す変色した石段、折れ曲がった鉄骨が剥き出しの被爆遺構。広島には、原爆が残した爪痕が今も数多く保全されています。思わず目をそむけたいような歴史の残骸をなぜ大切に守るのか、ヒロシマの記憶が、私たちの将来にどんな影響力を持つのか、私が専門とする実証記憶学の観点から、この問いに答えたいと思います。実証記憶学とは、エビデンスを用いて過去の記

を分析し、将来の意思決定にどう関与するかを予測する学問。例えば、国家や集団間に過去の紛争の「記憶のせめぎ合い」が生まれた時、「どのように」対立、紛争や差別に発展したのか、プロセスを解明して理論を構築し、地域性と普遍性を見だし、平和構築の活動に役立てます。

ここで重要なのが、「有形・無形、質的・量的な証拠」をもとに、記憶を分野横断的に考えること。自分と他者の視点を分析する力を学ぶことが、広島大学での実証記憶学の目的です。

ピースツーリズムで復興の知恵も体感

人と経済を動かす観光は、平和構築に有効な手段の一つ。私は「平和と観光」を研究テーマに掲げ、広島市の観光政策部が主催する「ピースツーリズム」に推進懇談会委員として参画しています。この企画では、広島を訪れる人が現地の今と歴史を体感します。昨年、全国調査を行ったところ、現地の「証拠」にふれた訪問者ほど平和な社会を築く当事者意識が芽生え、より深く学びたいとリピーターになりやすいことがわかりました。



平和センター主催の市民公開講座ポスター。2017年から毎年開催している

また、市民公開講座や国際会議を開き、市民や

企業との知識と経験の交流にも力を入れています。私が皆さんに伝えたいのは、広島の記憶が「残酷さ・悲惨さ」だけではないこと。例えば、被爆者森富茂雄さんの証言と画集には、映画『この世界の片隅に』のモデルにもなった心温まる下町の記憶が描かれています。さらに、被爆後の復興の過程が記録された資料には、逆境を乗り越え、公平な社会を作るための知恵が詰まっています。広島の現場・現物・現実を五感で感じ、平和とは何か、平和の実現のために自分に何ができるか、共に考えましょう。



PROFILE | ふぁんでるどうするり
広島大学平和センターに所属。大学院人間社会科学部研究科 国際平和共生プログラム兼任。専門は、記憶学*、社会言語学、言説表象分析など。

*多分野・多領域横断型の学問。社会学、社会科学、心理学、応用言語学、博物館学、美術学、医学、情報学、観光学、経済学、法学、工学・国際政治学などさまざまな分野の専門家が研究にあたる

AERA が書く 研究者の素顔

研究者は普段どのような一日を送り、研究に取り組んでいるのか。学問との出会いや、探究の原動力は何だったのか。人物、スポーツ、文化、政治、経済、事件…幅広いジャンルを取材するAERA記者が研究者の素顔に迫ります。

[AERA]
「時代」をキーワードに独自の切り口で描くニュース週刊誌。国内外の重大ニュースから身の回りの小さな出来事まで「時代」を敏感にキャッチし、独自の視点で掘り下げた記事をお届けしています。

ヒト中心の 世界観を変えれば 生き物を絶滅から救える。



山田俊弘教授

大学院統合生命科学研究所
総合科学部 国際共創学科



やまだ・としひろ / 1969年、愛知県生まれ。2007年、広島大学大学院総合科学研究科准教授に就任。同研究科教授を経て、19年、大学院統合生命科学研究所教授に就任。22年4月から広島大学総合科学部国際共創学科長。熱帯雨林や生物多様性の保全が専門。著書に『正義の生物学 トキやパンダを絶滅から守るべきか』（講談社）などがある。

予想をはるかに超える 熱帯雨林の生物多様性

「うっそうと茂る熱帯雨林」「驚異的な生物多様性」。山田俊弘教授は大学生のころから熱帯雨林に憧れていた。大学院修士課程1年の時、インドネシア西カリマンタン州(ボルネオ島)の熱帯雨林を訪れた。眼前の熱帯雨林の多様性と複雑さは予想をはるかに超えるものだった。

『「私の手には負えない」と感じ、熱帯雨林に拒絶されたような気持ちになりました』

変化が生じたのはフネミノキの、羽根をつけた実が高さ40~50mの樹上からクルクル回りながら大量に降ってくる様を見た時だ。「眼前の熱帯雨林は、1億年以上にわたって被子植物の進化を育んできた。今自分が見ているのは、人間の感覚をはるかに超える歳月を重ねてきた大自然のうちの一通過点にすぎない」。山田教授はそう直感的に理解した。熱帯雨林に拒絶されているような感覚が薄らぎ、熱帯雨林のことをもっとよく知りたいという気持ちが芽生えた。フネミノキの実が風に乗ってどこまで散布されるのか、夢中でデータをとる毎日が始まった。

その調査をまとめた論文がケンブリッジ大学出版局から出版された教科書に引用された。「修士課程での研究が国際的に認められたのがとてもうれしかった」。山田教授は当時を振り返る。

住民の生活の維持と持続的な 森林資源の利用を両立

生物を保全するために必要な技術・知識を研究する保全生態学が専門だ。これまでインドネシア、マレーシア、ミャンマーを中心に熱帯雨林の調査研究を行ってきた。特にミャンマーの人にとって森林は食料、燃料など生活の糧を得る重要な場所だ。住民の生活の維持と持続的な森林資源の利用を両立させるために必要な仕組みを見つけないといけない。

- 1 2019年には広島大学教育賞を受賞。講義への積極的な姿勢が、質の高い教育の実現へとつながった
- 2 フライベートでも自然と親しむ。各地の川へ赴いて魚を釣り、観察するのが休日の楽しみだ



いるのかを解明する必要がある。そのために生態学の知見を役立てたいと山田教授は考えている。

「ヒトの命が尊重されるのであれば、ヒト以外の命も尊重されるべきです。この意識を多くの人が共有し、行動する、つまり、ヒト中心の世界観に変革が起こった時、自然保護や生物多様性の保全が急速に進むと考えています」

文理の枠を超えた教育研究の 環境が総合科学部の魅力

人々の世界観を変える一助になればと考え、「なぜ絶滅危惧種を守らなければならないのか」を問かける著書『正義の生物学』を2020年に出版した。生物学にとどまらず、倫理学や哲学的な視点を含んだ同著を書くことができたのも、広島大学総合科学部の文理の枠を超えた学際的な教育研究環境があったからだ。

「同じ研究棟の中に文系、理系の先生がいらっしゃいます。疑問に思うことがあればすぐに異なる学問分野の先生にも話を聞きにいける環境はとても刺激的です」

学生と議論できる講義も大好きだ。山田教授は学生たちに「不思議がる」ことを期待する。19世紀、「生き物は神がつくられてから不変である」との考え方が当たり前の世界にあって、ダーウィンはそれを疑い、進化論を導き出した。

「当たり前に思えることでも、まず不思議がる気持ちを持つことで、全く新たな視点から物事を見ることができるようになります」

取材・文 / 朝日新聞出版 西島 博之



各国代表や大使と語り合う 「ピース・レクチャー・マラソン」

スロベニア共和国大使館から
「平和への献身」の大切さを発信

広島大学では、2018年度より世界各国の政府代表者や大使が平和をテーマに講演を行う「ピース・レクチャー・マラソン」を実施しています。第6回目となる2022年4月7日の講演には、1991年にユーゴスラビアから独立したスロベニア共和国の特命全権大使アナ・ボラック・ペトリッチ氏が登壇しました。

国際法の専門家である同氏は、「平和への献身 (Dedication to Peace) がこれ

まで以上に重要になる」とメッセージを発信。国際人道法や国連憲章の歴史の紹介を交えながら、ロシアによるウクライナへの侵攻を目の当たりにしている今日、平和や人権を尊重すること、国際秩序のために声を上げる必要があることを訴えました。参加学生からも積極的に意見が挙がり、今回の講演は本学の公共政策領域における教育力の高さを同様に認知していただく機会にもなりました。

広島大学が日本とスロベニアをつなぐ懸け橋に

講演前の顔合わせでは、本学の必修科目「平和科目」の紹介を交えつつ、ペトリッチ氏と越智学長がスロベニアと日本との学生交流・学術交流の展望について、意見を交換しました。両国の友好関係強化への期待が高まります。



学内イベント International Nightで 多面的な異文化交流を

プレゼンテーションやゲームで
さまざまな国の魅力を発見

世界中から学生が集まる広島大学では、学内で定期的に国際交流イベントが行われています。2016年10月から実施されている「International Night」もその一つ。広島大学に在籍する留学生が母国の文化を紹介し、イベントに参加した日本人学生と留学生が互いに理解を深めるイベントです。これまでインドネシアやベトナム、ケニア、フィンランドなど、さまざまな国の International Night が開催されてきました。参加者からは「新しい友人をつくれた」「その国に行ってみたくなった」と好評。発表を聞いた学生にとっては多面的で深い異文化理解の場に、プレゼン

ターにとっては母国の魅力を再認識できる機会となっているようです。最近では、ゲームやクイズなど一緒に楽しめる工夫が盛り込まれ、参加者同士の交流促進にもつながっています。

28回目となる2022年5月のイベントではサイパン出身の学生が、島の自然や学校生活について紹介。日本人学生だけでなく、アメリカやカンボジアなどさまざまな国の留学生も参加し、熱心に耳を傾けていました。

International Night は今後も引き続き開催予定です。その場限りの交流にとどまらず、留学生と日本人学生の交友関係がより広がるようなイベントを目指します。

地球規模のトピックから地域密着のエピソードまで、
広島大学の取り組みを GLOBAL (国際) と LOCAL (地域) の両面から
紹介するコーナーです。

「ジュニアドクター育成塾」が ものづくり大国、日本の将来を拓く

広島に住む小中学生が
研究者の卵に

「ジュニアドクター育成塾」とは、国立研究開発法人 科学技術振興機構が主催する、次世代の科学者人材を育成するための事業。全国各地の教育機関が参画し、地域の小中学校の児童・生徒たちが自ら課題を発見し、解決する能力を育みます。

広島大学では、県や市町の各教育委員会やマイクロン財団、株式会社エディオンなどの一般企業と連携し、「ものづくり」をテーマにした育成塾を2019年度より開催しています。約2年半におよぶプログラ

ムを通し、受講生は体験型の講義で論理的思考力を身に付けた後、希望の研究室で研究の基礎知識と技能を習得。最終的には自ら設定した研究テーマに取り組み、その成果を発表します。これまで「非常時だけではなく、平時にも活躍できるレスキューロボットの開発」など、独創的な研究が数多く生まれました。

広島大学における育成塾の最大の特徴は、受講生がグループワークを中心に協力して学び合うこと。科学技術イノベーションの実現には、卓越した発想力を持つリーダー人材に加え、それを多方面か



ら支えるサポート役も必要です。今後は本学の文系学部の知見も積極的に取り入れ、より幅広い分野からの人材育成に力を入れていきます。



「瀬戸田レモン」で
地域を活性化

地域社会が直面する課題の解決や地域活性化のため、本学の学術的な蓄積や教員・学生の力を活用し、調査や実践活動に取り組んでいる地域連携事業「地域の元気応援プロジェクト」。

その採択事業の一つとして、2019年度から教育学部 第四類 (生涯活動教育系) 人間生活系コースの学生と富永美穂子准教授が一丸となり、広島県尾道市瀬戸田町のにぎわい創出に取り組んでいます。プロジェクトの核は「瀬戸田レモン」。国産レモン生産量日本一を誇る瀬戸田町自慢のブランドで、農薬の使用を最低限に抑えており、皮まで安心して食べられるのが特徴です。

「My×Macaron」と「かくれもん」で
まちの人々や観光客をもてなす

2022年3月に現地で開催されたイベント



瀬戸田町と
広島大学を
さわやかな香りが
つなぐ

「広島大学プチレモンカレッジ」では、瀬戸田レモンをクリームとコック(皮)の両方に使用し、季節のフルーツを組み合わせたマカロン、「My×Macaron」を製造販売。マカロンの色やクリーム、中に挟むフルーツをその場で選ぶことができるオーダーメイドスタイルとしました。また、参加型の企画として、紙ベースに加え、SNSと連動したスタンプラリー「かくれもん」も実施しました。有名な観光地だけでなく、現地を訪れることでしか分からないまちの楽しみ方を知ってもらうのが狙いでした。

子ども向けの体験プログラムやさらなる新商品の開発など、今後もレモンを使った企画を展開予定。瀬戸田町のPRサイトも立ち上げ、大学生ならではの目線で瀬戸田町の魅力を発信します。



「広島大学プチレモンカレッジ」での出店の様子。当日は多くの人々が訪れました



HIROSHIMA

ZAMBIA

中村 悠人 さん

総合科学部 国際共創学科 4年
留学期間：10カ月(2022年2月～2022年11月)

留学体験記

インターンシップにも参加し
スポーツを通じて
アフリカを知る

高校生の頃に一度、母親の祖国であるザンビアを訪れました。その時、現地の人々とサッカーをして交流したことをきっかけに、スポーツを通じた国際開発に関心を持ち、留学を決心。ザンビア大学への留学は大学院生が対象でしたが、挑戦したい旨を伝えたと、広島大学からの支援のおかげで、コロナ禍にもかかわらず実現することができました。留学前はもちろん、渡航後も手厚いサポートで安心して現地ですべてしています。留学先では開発学を学びながら、ザンビアの学生に日本語を教えています。

また、現地のスポーツ庁が管轄している機関でインターンシップにも参加。ザンビアの一部の女性チームの選手たちは、練習会場へ2時間近く歩いて行かなくてはならない、試合の休憩時間に水を飲めないなどの課題を抱えています。イベント運営やサッカーチームのサポートなど現地での経験を積み、アフリカ諸国のスポーツ事情を理解・発信することで、現地のスポーツ発展に貢献したいと思っています。

How an internship and sports deepened my understanding of Africa

A two-week visit to Zambia during my high school days motivated me to study abroad. On that occasion, I had a chance to play football with the locals and realized that sports have the potential to unite people. Thanks to this experience, I became interested in exploring sports for development and decided to study abroad. At first, there was no program for undergraduate students of Hiroshima University (HU) to study abroad in Zambia: it was only available for post-graduates. However, when I presented my dream to study-abroad coordinators of HU and the University of Zambia, they decided to accept me as an exchange student, and finally I was able to achieve my dream of studying in Zambia despite the COVID-19 pandemic. Through the support of Hiroshima University, I was and am able to overcome many challenges both before and after participating in the study abroad program in Zambia. Apart from studying Development Studies at the University of Zambia, I also teach Japanese not only to students there but also to some company employees in my spare time. In addition, I conduct an internship at the National Sports Council of Zambia, an institute under the Ministry of Youth, Sports, and Arts. During my stay in Zambia, I discovered some problems which many female football players face. For example, some of the players have to walk for one to two hours to get to the football field for practice or matches; what is more, they cannot even afford to drink water during the half time of the game due to the lack of financial support. I am passionate about alleviating such problems during my stay here because I would like to contribute to the development of African sports by better understanding its current situation and organizing sports events or supporting the local football teams in any possible ways.

市民が気軽に集える憩いの場を
社会実験「ALC'mon アルカモン」

市の課題と大学の研究をマッチング!
「コムプロジェクト」

広島大学と東広島市が二人三脚で地域の課題解決にあたり、持続可能なまちづくりを推進する「Town&Gown構想」。その一環として「コムプロジェクト」が行われています。コムプロジェクトとは、大学の研究テーマと市の社会課題をマッチングさせる取り組み。研究の学びを生かして、市民参加型の持続可能なまちづくりを目指し、双方がメリットを感じる事業を円滑に進めます。

コムプロジェクトがきっかけとなり、東広島市の中心市街地を「歩いて楽しい

にぎわいのある街」にするための社会実験が2021年の冬に行われました。その名も「ALC'mon アルカモン」。プールボール歩道空間と西条中央公園で、キッチンカー販売や2000本のキャンドル設置など、さまざまなイベントが催されました。広島大学からは都市・建築計画学研究室の田中貴宏教授と学生が参加。海外のまちづくりを参考に、道路空間の一部にベンチや人工芝などを配置し、にぎわいや憩いの空間をつくる「パークレット」を制作しました。ゆくゆくはにぎわいの場を市の中心市街地まで広げることを目指し、今後も継続的に行われます。



期間中はプールボールと西条中央公園がイルミネーションで彩られ、多くの人々が憩いの場に変身



「ALC'mon」開催ポスター

「学生発スタートアップチャレンジ」
アイデア実現や起業を応援

学生のプロジェクトを
産学連携でアシストする

産学連携の活性化を目指す「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム」の事業の一環として「学生発スタートアップチャレンジ」がスタートしました。本取り組みでは、学生から広く事業のアイデアを募集。その中から採択課題が選ばれ、最大30万円の助成金とベンチャーキャピタルからの支援のもと、学生たち自身がプロジェクトを遂行し、構想を練り上げていきます。2021年度は25課題60人の応募があり、5課題が採択されました。

「アイデアを具現化する力は将来どの仕事でも求められる力。学生たちにはブ

ロジェクトを通じて、社会で通用する行動力や創造力を磨いてほしい」と担当の小林遼平准教授。広島大学は、2022年度から全ての新生入生にアントレプレナーシップの講義を行うなど、起業家教育に力を入れています。本取り組みは、さらに実践的な能力を身に付ける場として期待されます。

「不採択だった学生も次のチャレンジの機会を見据え、アドバイスを求めるなど、常に挑戦し続ける姿勢が印象的でした。今後は参加対象を広げ、本学がネットワークを持つ世界中の学生とアイデアを磨くプラットフォームを目指したいと思います」(小林准教授)



2021年度 採択事業	
高校生・広島大学チャレンジツアー ～地方の高校生にも「大学の学び」を届ける～	治田 蓮花(総合科学部 4年) 他
学生向け高度カスタマイズ可能な記念映像制作サービス	康 凱翔(大学院人間社会科学部 博士課程 2年) 他
地方は宝の山!空き家を活用した住み込み型チャレンジショップ事業	櫻井 業(文学部 4年) 他
広大生の使わなくなった自転車を利用したシェアサイクル事業	西村 咲野(総合科学部 4年) 他
農産物出荷補助アイテム	吳 敬馳(大学院先進理工学系科学研究科 博士課程 1年) 他

こちら グローバル キャリアデザイン センター!

広島大学を日々
支えるオフィスや
センター。その
業務の内容に
迫ります。



Q1 グローバルキャリアデザインセンターの役割について教えてください。

A. 留学生を含めた学部生から大学院生、若手研究者に至るまで、キャリア支援を一括して担っています。就職関連セミナーの企画、相談業務を通じた進路・職業選択支援や、フェロシップ制度を生かした若手研究者の経済支援などを実施。大都市圏から離れていても情報不足や活動の遅れが生じないように、コロナ禍前からオンラインでの就職サポートにも取り組んでいます。

Q2 メンバー構成や組織の雰囲気は？

A. センター長をはじめ、教職員、キャリア相談員など、さまざまな職種のメンバー19人で構成。一人の学生のために、複数人で意見を出し合い、協働して支援する雰囲気があります。

Q3 グローバルキャリアデザインセンターの強みとは？

A. 多様な学生をサポートできる人材がそろっているところです。さまざまなバックグラウンドを持つキャリア相談員がおり、学生のニーズに合わせて的確なアドバイスができます。

Q4 苦勞する業務、やりがいを感じる業務は？

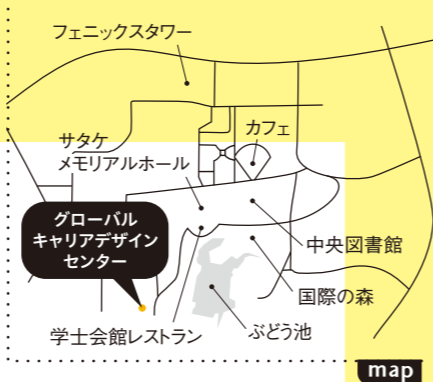
A. 「企業の採用活動が落ち着く秋以降の就職支援は容易とは言えませんが、進路実現への道を学生と一緒に考えます。サポートの結果、内定が決まって報告に来てくれる学生のうれしそうな顔を見るとやりがいを感じます」

(キャリア支援グループ 木戸 隆介さん)

Q5 現在、最も力を入れているのはどのような業務ですか？

A. 就職活動早期化に対応するために、低年次向けのセミナーやガイダンスに力を入れ始めました。昨年度からは2年生向けに、ゲーム感覚で自己分析ができる「適職診断テスト」も実施。広島大学はそんな早くから就職支援を実施しているのかと他大学の方から驚かれます。今後も、社会の動向や学生のニーズを

しっかりと把握し、分かりやすく情報を提供することで、学生たち自身が納得できるような進路決定をサポートしていきたいと思っています。



HIRO-DAI HEROES

キャンパスで、地域で、チャレンジする広島生を紹介

HERO 21 黒田 和暉 さん
(くろた かずき)
情報科学部 情報科学科 4年

プログラミングの力で、音楽の可能性を広げたい

小学生のころ興味を持ち、一度挫折したプログラミング。高校時代に音楽投稿サイトの制作を通じて音楽の可能性を広げたいと再挑戦しました。大学では情報科学部で専門的にプログラミングを学び、3年次にはU-22プログラミング・コンテストに参加。そこでは、「次世代の音声フォーマット」と題し、音声ファイルの情報を最大限生かして立体的な表現を可能にすることで、アーティストが望みありのままの音源を届ける作品を発表しました。コンテストではアイデアが評価され、経済産業大臣賞を受賞することができました。プログラミングの魅力は、パソコンとその周辺環境を整えるだけで、自分の望む世界をつくれること。これからも、魅力的な音声フォーマットの制作を目指して、研究・開発を続けていきます。



プログラミング・コンテストの発表時の様子 次世代の音声フォーマットのプレゼン資料

お気に入り講義：
睡眠の科学

生きていく中で誰もが多くの時間を費やす、睡眠について学べる講義です。



HERO 22 西村 咲野 さん
(にしむら さくの)
総合科学部 総合科学科 4年

もったいない精神で、自転車のリユース事業に挑戦

広島生の生活に欠かせない自転車。卒業を機に大量に廃棄されてしまうのは「もったいない」と感じ、学内の不要自転車を回収・修繕し、再利用するシェアサイクル事業ができなにかと考えました。この構想を「学生発スタートアップチャレンジ」に申請したところ、採択事業として活動資金を得ることに。2022年春には実証実験を行い、本格的に始動しました。実際にやってみて分かったのは、サービスへの需要がある一方で、運営にコストがかかること。初期/維持コストの低いシステムの完成まではレンタサイクルとして自転車を再利用し、安価で地球に優しいシェアサイクル事業を模索していきます。今後は、物を大切にしようとする意識を高めるようなイベントも企画したいです。私たちの活動を通じて、修理・補修や中古品の購入が、学生や市民の皆さんにとって身近な選択肢となればいいなと思います。



学内IDでログイン後フォームに記入すれば、すぐに利用できます 成果発表会でのプレゼンテーションの様子

お気に入り講義：
中東・イスラームの世界

中東やイスラームの成立を専門家から学べる、視野の広がる講義です。



卒業生インタビュー / 私も

大です

広島大学を卒業・修了後、各業界で活躍されている卒業生の方々に、現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。



経済学部 出身
兼田 貴代 さん

株式会社 櫟 kunugi
代表取締役 / オーナーパティシエール

かねた・きよ / 専門学校卒業後さまざまな飲食店で経験を積み、1994年に株式会社 櫟を創業。代表取締役として第一線で活躍を続ける中、広島大学経済学部にて社会人入学した。2021年に卒業した後、事業を海外へも拡大している。



総合科学部・大学院生物圏科学研究科[※] 出身

南 利幸 さん

気象予報士 / 気象キャスター

みなみ・としゆき / 広島大学総合科学部環境科学コースを1988年に卒業後、大学院へ。1990年に日本気象協会に入職。現在はNHK・民放各局の気象キャスターとして出演する傍ら、自身が設立した(株)南気象予報士事務所の代表取締役も務める。

[※] 現 大学院統合生命科学研究科

身近な人を喜ばせたい ワッフル専門店を立ち上げた後、 社会人入学

調理師学校を卒業後、お寿司屋さん他飲食店で経験を重ね、ワッフル専門店“櫟 kunugi”を創業しました。家族や友人など、身近な人と一緒に楽しめるようなお菓子を作っています。

会社を経営しながら広島大学に入学した理由はいくつかあります。経営者として知識不足を感じたことや櫟を支えてくださる方々に広島大学の卒業生が多かったこと、また大学受験期を迎える息子たちに挑戦する姿を見せたかったことなど。周囲に合格は無理だと言われたことが反対にさらにやる気につながり、代表として働きながらも無事合格を果たしました。

広島大学に入学してからは、新たな発見や出会いの連続。特に経営学の講義は印象的でした。経営者として強く共感したり、疑問を抱いたり。経営の現場を知る者として意見を求められた際には、自信が持てず逃げ出したくなることもありましたが、誰よりも熱く受講できたと感じています。激務の合間を縫っての通学で、卒業には6年という長い期間を要しました。しかし、この年月で得られた知見や人との出会いはかけがえのないもの。諦めずに学びを続けられたことは、今の私を支える糧になっています。

広島から海外へ 卒業後の新たな挑戦

現在は櫟の海外展開にも尽力しています。場所は、近年急激な経済成長を遂げているウズベキスタンです。広島大学へ留学

していた現地の大学院生と知り合ったことがきっかけとなり、進出を決意。設備も材料も十分にそろわない中でしたが、現地にある素材を生かし、ゼロから櫟のワッフルを作り始めます。人口も増加傾向にあるウズベキスタンの子どもたちに日本のお菓子や文化を届けたい。女性たちが活躍できる社会づくりに貢献したい。これが現在の目標です。優しさや感謝、そして諦めない心を忘れず、いくつになっても挑戦を続けます。

広大のここがええね!

記号の意味すら分からなかった微分・積分。授業外でも熱心にサポートして下さった、名誉教授で元理学研究科の阿賀岡芳夫先生のおかげでなんとか修了できました。本当に感謝しています。

データ収集に 気象台へ通った学生時代

学生時代は毎日のように気象台へ行き、地道に研究のための観測データを集めました。オンライン資料が充実する今の時代にはすっかり不要となった作業ですが、現地の環境を体感できたことで、数値から天気を再現し予測する想像力を育む良いきっかけになりました。

また、地質や植生などあらゆる分野の専門家から自然科学を学べたのも総合科学部ならではの。当時の学びのおかげで、豪雨の時には土砂崩れの危険性などを的確に伝えられます。今でも広島大学の先生方に質問することはしばしば。「広大のOBです」とお伝えすると、親身にご協力いただけるのは卒業生の特権です。

大学院修了後は日本気象協会へ入職、気象キャスターとしての活動をスタートしました。当初痛感したのは、話を聞いてもらうことの難しさ。一方通行になりがちな天気予報に興味を持ってもらうため、毎日試行錯誤を繰り返しました。

空模様と視聴者の日常を つなげる醍醐味

そしてある時、番組共演者からダメだしいが。「お前の天気予報にはオチがないんだよ」。この一言に衝撃を受け、単調な天気予報にオチをつける努力を始めました。通勤時にメモした周囲の人の会話や服装、持ち物を会話の種にしてみたり、時に駄じゃれを交ぜてみたり。そうして共演者との会話を意識すると、自然と周囲が乗り気になり、結果的に視聴者

からの反応も良くなったのです。

気象キャスターの仕事は、空模様と視聴者の日常をつなげること。これからも思わず聞き入ってしまうような天気予報を心がけます。また、数年前からは(株)南気象予報士事務所(兵庫県西宮市)を立ち上げ、後進育成にも尽力中。気象キャスターを目指す若い世代に、メディア出演を通して学んだ気象情報のノウハウを伝えていきます。

広大のここがええね!

在学中は「東雲バスケットボールサークル」で毎日汗を流しました。県リーグにも出場するほど熱心なサークルで、当時チームをリーグ2部から1部へ導いたのは良い思い出です。

from
和歌山県

教育学部 1年 柏木 遥さん

Q あなたはどうして
広大に？

幅広い分野を網羅した全国屈指の教育学部で、たくさんの仲間と切磋琢磨できる環境に惹かれたからです。自然豊かなキャンパスも、入学の決め手の一つ。現在は、先輩方のような支援者になれるよう、地域の子どもの学習相談・支援活動に取り組んでいます。

Q 実際の大学生活は
どうですか？

入学後、キャンパスの広さと人の多さには驚きました。全国各地・世界各国から多様な学生が集まるため、さまざまな文化・価値観に出会えてとても面白いです。加えて、食堂も魅力の一つ。どのメニューもおいしくて栄養満点なので、一人暮らしの身には助かります。



from
広島県

法学部 夜間主コース 1年 井上 歩さん

Q あなたはどうして
広大に？

尊敬する先輩に少しでも近づきたくて、追いかけるように入学しました。私が通っているのは広島市内にある東千田キャンパス。地元の大学なので、親に安心してもらえて良かったと感じています。平和についてしっかり学べるのは、広大ならではの魅力です。

Q 広大で何を
学びたい？

自分の見識を広げたいと考え、専門である法学分野に加えて、他の学部の開講科目にも挑戦しています。また、校友会学生チームに所属し、ボランティア活動にも力を入れています。自ら積極的に活動し、誰かの役に立つことがとても楽しみです。



favorite spot

栄養満点なメニューが
そろう食堂



HU-style vol.19

ニューカマー
紹介

ようこそ 広大へ

favorite spot

静かで勉強に集中できる
BIBLA



favorite spot

学年を超えて学生が集う、
IGS(国際共創学科)コモンルーム



favorite spot

本部棟から
山中池バス停までの桜並木



総合科学部 国際共創学科 1年 熊内 啓来さん

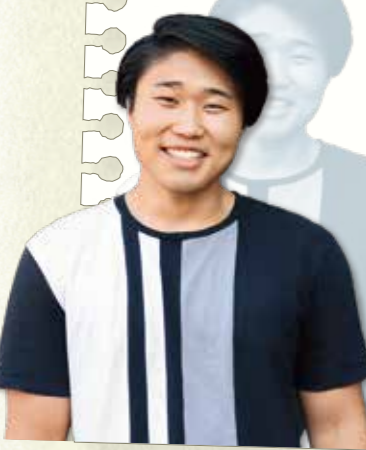
from
大阪府

Q あなたはどうして
広大に？

アメリカの大学を受験予定でしたが、コロナ禍で断念。学びたい分野をオールイングリッシュで学べる国際共創学科を受験しました。THE世界大学ランキング日本版2022で国内10位であることや、ごみのない美しいキャンパスにも大きな魅力を感じました。

Q 広大で何を
学びたい？

総合科学部は文理を横断した、学際的な学びが特徴。大学院進学を目指して、これから幅広い専門知識を身に付けていきたいです。キャンパスには勉強に最適な、落ち着く場所がたくさん。友達と一緒に課題に取り組んだり、一人で自習したりして過ごしています。



from
中国

国際協力学系支援室 総務担当 傅 嘉琪さん

Q あなたはどうして
広大に？

中国での学部生時代に教育を専攻していたことから、教育分野が有名な広大の大学院を志しました。しかし、当時は入試の難易度の高さに断念し、茨城県の大学院へ進学。そのことが心残り、「今度こそ!」と思い広大へ入職しました。

Q 広大での
目標は？

現在の部署では、非常勤職員(TA・RA・各種補佐員等)と教員評価について、各種事務を担当しています。入職後は、同僚たちの英語の堪能さに驚きました。「さすが広大!」と感銘を受けると同時に、自分も英語力を磨かなければと気を引き締めています。



HU TOPICS

2022.1
|
2022.7

全12学部・4研究科の注目トピックをピックアップ。
広島大学の最新情報を紹介します。

学部情報 / 大学院情報

大学の動き

大学病院に「てんかん手術支援ロボット」を導入

6月30日、大学病院は、難治性てんかんの診断・外科治療における新しい手法：定位的深部脳波検査(SEEG)を素早く正確に行える「てんかん手術支援ロボット」を導入し、デモ公開しました。SEEGは、頭皮上から頭蓋骨に小さい穴を開けるだけで脳深部へ電極を挿入する方法で、患者さんへの負担が従来より大幅に軽減できます。また、脳科学分野での脳

機能の解明やこころ・感性に関する研究にも応用が期待されています。導入は西日本初(全国3例目)です。



野村謙二郎氏が、 本学スポーツセンター客員教授と野球部アドバイザーに就任

広島東洋カープの元監督である野村謙二郎氏が、6月1日付で本学スポーツセンターの客員教授と体育会硬式野球部のアドバイザーに就任しました。同月14日には、本学体育会学生および顧問教員との座談会を開催し、終了後は野球部への技術指導も行いました。野村氏は、スポーツを通して活気のある大学になってほしいという思いから客員教授に就任。「今後体育会の各団体が団結し

て広島大学を盛り上げてほしい」と話しました。



東京オフィスが新橋駅近くに移転

1月末、東京オフィスが千代田区内幸町に移転しました。JR新橋駅から徒歩5分、地下鉄都営三田線内幸町駅から徒歩1分と、アクセスの良さは抜群です。オフィス内には会議室のほか、ソファタイプの席、テントタイプの席など、用途や気分にあわせて利用できる数種類の席を用意。東京での活動拠点としてぜひご利用ください。



総合科学部

学生独自プロジェクト 成果報告会

3月16日、2021年度の成果報告会を開催しました。学部生と大学院生による「サイエンスイベントプロジェクト」「学生の学生による学生のための人工知能(AI)学習教材の開発」「SOGIESCの観点からジェンダー規範を問うボードゲームの作成」など7つのプロジェクトによる発表に加えて、活発な意見交換も行われました。

文学部

文学部サテライト展示の ご紹介

文学部では、広島大学総合博物館のサテライト展示を行っています。特に第1展示スペース(1Fロビー)では年に2回程度、各分野の教員が持ち回りで展示を入替えています。



教育学部

新入生歓迎 野外オペラ『魔笛』 教育学部音楽文化系コース

4月23日、教育学部で野外オペラ『魔笛』を上演し、終演後は花火を打ち上げました。学内外から約450人の皆さまにご来場いただきました。今後も広大オペラをよろしくお願いいたします。



法学部

新入生歓迎行事を開催

2年生有志の企画により新入生歓迎行事を開催しました。昼間コースは4月17日、夜間主コースは4月15～17日に行われ、新入生、先輩とつながりを築く機会となりました。



経済学部

かえで賞の表彰式を 行いました

4月28日、かえで賞受賞者7人の表彰式を行いました。かえで賞とは学業やTOEIC®などで優秀な成績を収めた経済学部生を表彰するものです。表彰状、副賞が授与されるほか、学業成績優秀者には履修上限単位の撤廃や早期卒業の機会も与えられます。



理学部

高校生向け体験講座等を 実施

理学部附属未来創生科学人材育成センターでは、高大連携事業を積極的に開催しています。出前授業、大学訪問、高校生の研究に対するアドバイスのご希望があれば、ぜひお寄せください。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/rigakuyugo/miraijinzaikoudairenkei>



医学部

医学資料館で 「島家旧蔵医学資料展」を開催

原爆爆心地として知られる島病院(現・島内科医院)の先祖が収集した江戸時代後期から明治期にかけての貴重な医学文献資料164点が、2022年春に寄贈されました。8月1～31日に「島家旧蔵医学資料展」を開催しています。



歯学部

国際歯学コースの学生が 海外の歯学生と対面で交流

国際歯学コースは海外の歯学部学生が4年間、広島で本学歯学部学生と歯学専門科目を学ぶプログラムです。このたび2年ぶりにアジアの大学の学生が来学し、対面で交流することができました。



薬学部

高校に出向き、 最先端の講義を出前

高校を訪問して最前線の薬学研究の内容や実験の面白さと魅力を伝える出張講義を行っています。申込みは、所属の高等学校を通じて受け付けていますので、興味のある方は、ぜひ学校の先生にお願いしてください。申込方法は広島大学薬学部のウェブサイトをご覧ください。



工学部

「活躍する先輩からの メッセージ」を掲載

工学部ウェブサイトでは年3～4回工学部・大学院工学研究科を卒業・修了し、社会で活躍する先輩からのメッセージを掲載しています。社会人となった先輩方がさまざまな分野で活躍している様子や在学生へ向けたメッセージを掲載しております。ぜひ一度ご覧ください。



生物生産学部

乳牛の感染症を迅速に診断

乳牛の乳房内感染症(乳房炎)の迅速診断技術開発に関する事業(JRA畜産振興事業・2022年度採択)が進行中です。生乳の安全・安定供給に一層貢献します。



情報科学部

3プログラム制への再編・ 3履修モデルの導入

2022年度入学生より、従来の教育課程である1プログラム2コース制から、3プログラム制(計算機科学プログラム、データ科学プログラム、知能科学プログラム)に再編しました。また、3履修モデル(基礎履修モデル、融合履修モデル、実践履修モデル)を新たに導入しています。詳しくは情報科学部のウェブサイトをご覧ください。



人間社会科学研究科

修士論文タイトルリスト

人間社会科学研究科設立から2年、2022年3月に初めての博士課程前期修士生303人が巣立ちました。研究科ウェブサイトの特設ページに修士論文タイトルリストを掲載。人間社会科学研究科の研究の多様性と幅広さが一目でわかります。各分野での最先端の知に触れてください。



先進理工系科学研究科

教員の研究成果を紹介する 「研究セレクション」をウェブで公開

先進理工系科学研究科のVisibilityを高め、存在感のある研究科にすることを目的として、「インパクトファクターの高い論文」や「社会実装につながりそうな論文」の概要をウェブサイトで公開しています。ぜひご覧ください。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/adse/research/research-selection>



統合生命科学研究科

第3回統合生命科学研究科 シンポジウムを開催

6月22日に3回目となる研究科シンポジウムを開催し、研究科教員と3つの連携講座から最新の研究等について紹介しました。当日の講演等は、研究科ウェブサイトでもオンデマンド配信しています。ぜひご覧ください。

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/ilife/symposium202206>



医系科学研究科

JICA、久保教授を団長に モルドバへ調査団派遣

医系科学研究科の久保達彦教授(公衆衛生学・災害医療)が、3月～4月、5月の2回にわたり、国際協力機構(JICA)ウクライナ避難民支援調査団の団長としてモルドバ共和国に派遣されました。現地では、WHOと連携した災害医療調整や、主要病院等を訪問して保健医療分野の協力ニーズに関する調査を行いました。

“広大キャンパスの「イマ」をお届け” キャンパス NOW

この木なんの木？

広島大学 樹木クイズ!

東広島キャンパスでは、2022年現在で約170種6,000本の多種多様な樹木が植栽されています。今回は、その一部をクイズ形式でご紹介。ぜひ挑戦してみてください! (答えは右下の二次元コードから)

Q1

- 世界で**最初に日本で化石として発見**されましたが、1945年に中国四川省、湖北省に自生していることが判明し、世界が驚いたといういわれのある木です。
- 葉は枝の**左右対称に隙間なく茂**ります。
- 大学移転前の東千田キャンパスの並木は、フェニックスに次いで**広島大学のシンボリックな存在**でした。並木の一部は隣接する東千田公園に残され、当時の面影を伝えています。



Q2

- 2月~3月頃に葉の展開に先立ち開花し、花には**甘い香り**があります。
- 学問との関連が深く、かつて晋(中国)の武帝が学問に親しむと花が開き、学問をやめると花が開かなかったという故事に由来した「**好文木**」という別名があります。
- 実が熟する頃に降る雨を「**つゆ**」と言います。



Q3

- 「**学問の聖木**」とされ、孔子廟や大学など教育機関の庭などに植えられています。
- 枝元に、**直径6mmほどの赤い実**ができ、やがて紫色に変わります。
- 成木になると幹が腐って空洞になる=芯が腐乱することから、「**ランシンボク**」の別名があります。



Q4

- 公園や街路樹**によく植栽されています。
- 樹形は枝を広げた姿が扇を開いたように美しく、各地に**天然記念物に指定された巨樹や名木**があります。
- 11月頃には**赤、橙、黄に紅葉**します。
- 樹齢1,000年超の秩父・今宮神社の御神木(龍神木)には**龍が棲む**と言われています。



Q5

- 葉の形からカエデの仲間のように見えますが、実は**フウの仲間**です。
- 秋になると**工学部周辺では見事な紅葉**が見られます。
- トゲトゲで丸いボールのような形の実がなります。乾燥させた実は**リースなどの飾り**としてよく使われます。



TOPIC! 学生ボランティア CSRの取り組み

東広島植物園と総合博物館、学生ボランティア(CSR*)が協力して、東広島キャンパスの樹木にネームプレートを取り付けるプロジェクトをスタートしました。CSRが撮影した写真は、広島大学デジタルミュージアムにもコンテンツとして反映されています。



正解



*CSR...キャンパス・スチューデント・レンジャー。キャンパスの生態系の維持管理などを目的とした学生ボランティアの名称。

Reader's View

HU photos

Instagramで#広島大学の付いた投稿からお届けします。



2022.5.8
#広島大学 #広大水球
#部員募集中

投稿者:waterpolohu419さん

HU ism

広島大学にまつわる、読者から届いたちょっといい話をご紹介します。

広島大学に入学するために一人暮らしを始めた娘。寂しがるところか、連絡するたびに「大学楽しい!」「大学最高!」「部活入って良かった!」しか言わず、新型コロナウイルスのワクチンの副反応時などの「どうしても帰宅しなければならぬ時」以外は帰宅しない。娘がぶち壊しそうなので、親としては嬉しい。その反面、やはりちょっと寂しい。

ペンネーム:雪親(防府市・46歳)

投稿
募集中!

HU photos

広島大学にまつわる写真を#広島大学をつけてInstagramに投稿してください。テーマは何でもOK! 素敵な写真をお待ちしています。

HU ism

広島大学にまつわる逸話やエピソードを募集します。あの頃の懐かしい思い出話や誰かに言いたくなる広島大学の秘密を教えてください。

投稿はこちら



投稿が掲載された方には**広大マスコットキャラクター「ひろディー」トートバッグをプレゼント!**
※デザインは選ばせません。



WEBアンケートにご協力ください

読者の皆さまからのご意見、ご要望、情報提供をお待ちしております。いただいたアンケート内容は、今後の誌面づくりに活用させていただきます。



WEBアンケートはこちら

HU-plus 検索

読者プレゼント

アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で合計18名様にプレゼント!!

※応募締切:2022年11月30日必着 厳正な抽選の上、商品の発送をもって当選の発表とさせていただきます。

A 株式会社 櫛 kunugi
バームクーヘン太陽 1個



10名様

※店舗で引換券と交換となります。

B 株式会社 南気象予報士事務所
南気象予報士事務所 2023年公式カレンダー
「気象キャスターが切り撮る四季」



5名様

※写真は2022年のものです。

C 広島大学総合博物館
『東広島キャンパスの自然観察』1冊



3名様

広島銘菓「せとこまち」を
広島大学・尾道市と
弊社にしき堂が
共同開発した
広島銘菓「せとこまち」を
ご賞味ください。

にしき堂
本店/広島市東区光町1丁目13-23 ☎(082)262-3131(代)
https://www.nishikido.co.jp Eメール:info@nishikido.net
TEL ☎0120-979-1611(8:00~18:00) FAX ☎0120-963-161

お好み焼のある風景
あなたのエッセイ
募集中!! (採用賞) プレゼント!

発表 RCCラジオ「お好み焼のある風景」で
柏村武昭さんの朗読によりご紹介

採用賞 朗読CDとオタフク商品セット進呈

優秀作品賞 優秀作品はプロのイラストレーターによる書下ろしで
オリジナルアニメーションを作成しYouTubeで発表します

RCC
RCCラジオ「お好み焼のある風景」
毎週月・火曜日11:55~12:00 放送

柏村武昭さん

OTAFUKU 詳しくはこちら

Balcom Group

Balcom BMW
Motorrad Balcom
MINI
HARLEY-DAVIDSON BALCOM
Balcom Indian Motorcycle
ROLLS-ROYCE

広島大学への寄附にご協力いただき、深く感謝申し上げます。

広島大学基金

※広島大学が躍動し広島のを活性化させる基金
(広島大学75+75周年に向けて)・応急学生支援金を含む

高額のご寄附をいただいた方

●個人10億円以上 法人20億円以上	●個人500万円以上 法人1000万円以上	●個人100万円以上 法人100万円以上	
佐竹 利子 様 「特別栄誉学賞」	医療法人社団まりもヒロシマ平松病院 理事長 平松 廣夫 様 「名誉校友」 医療法人社団仁慈会 理事長 安田 克樹 様 「名誉校友」 オタフクソース株式会社 取締役会長 佐々木 直義 様 「名誉校友」 医療法人たんぼぼ会 理事長 大嶋 俊一 様 「名誉校友」 医療法人社団玄同会 理事長 小島 敬太郎 様 「名誉校友」 医療法人せのがわ 理事長 津久江 一郎 様 「名誉校友」 医療法人多布施クリニック 理事長 諸隈 啓子 様 「名誉校友」 株式会社合人社グループ 代表取締役 福井 滋 様 「名誉校友」 株式会社築地 代表取締役 平尾 真裕美 様 「名誉校友」 株式会社不二ビルサービス 代表取締役 濱野上 隆志 様 「名誉校友」 社会医療法人社団沼南会 理事長 檜谷 鞠子 様 「名誉校友」 西川ゴム工業株式会社 代表取締役会長 西川 正洋 様 「名誉校友」 日本基準寝具株式会社 代表取締役 今井 誠則 様 「名誉校友」 広島ロータリークラブ 様 「名誉校友」 三井住友信託銀行株式会社 代表取締役社長 橋本 勝 様 「名誉校友」 三嶋 弘 様 「名誉校友」 勝矢 博 様 「名誉校友」 平尾 泰保 様 「名誉校友」 田中 隆荘 様 「名誉校友」 松川 博之 様 「名誉校友」	株式会社バルコム 代表取締役 山坂 哲郎 様 医療法人社団みめぐみ会 サンクリニック 理事長 中村 雄二 様 医療法人社団楓会 林病院 理事長 林 淳二 様 医療法人おち眼科医院 理事長 大正富山医薬品株式会社 代表取締役社長 藤田 憲一 様 医療法人サカミの木の会 理事長 坂 信一 様 医療法人ワカサ会 理事長 若佐 直定 様 大嶋 俊一 様 医療法人社団マッキー 理事長 松木 啓 様 医療法人昭和 原田整形外科病院 理事長 原田 昭 様 医療法人エム・エム会 理事長 白川 泰山 様 医療法人社団 スマイル博愛クリニック 理事長 高杉 啓一郎 様 医療法人せいざん 青山病院 院長 大村 泰 様 医療法人社団知仁会 理事長 石井 知行 様 医療法人社団 井野口病院 会長 井野口 千秋 様 医療法人 小田内科クリニック 理事長 小田 弘明 様 医療法人社団 梶山小児科 理事長 梶山 泰正 様 株式会社総合広告社 代表取締役副会長 坪井 高義 様 株式会社 日本クワイメイトシステムズ 代表取締役社長 松尾 則宏 様 医療法人社団陽正会 寺岡記念病院 理事長 寺岡 暉 様 医療法人微風会 ビハーフ花の里病院 会長 和泉 一子 様 株式会社シンコー 代表取締役社長 筒井 幹治 様 田中電機工業株式会社 代表取締役 中村 靖富満 様 株式会社やまだ屋 代表取締役 中村 靖富満 様 広島大学 消費生活協同組合 理事長 細野 賢治 様	今治造船株式会社 代表取締役社長 檜垣 幸人 様 医療法人社団輔仁会 太田川病院 様 浜中 和子 様 早川 武敏 様 広島市信用組合 様 広島大学歯学部 歯科補綴学 第一講座同門会 様 三島食品株式会社 様 温泉川 梅代 様 Micron Technology Foundation, Inc. 様 医療法人ピーアイエー 理事長 中村 英雄 様 代表取締役 玉村 俊雄 様 相田 美砂子 様 アカシア会 (広島大学附属 高校同窓会) 様 田中 修司 様 浅野 宏國 様 医療法人社団慈杏会 土肥整形外科病院 様 川真田 智子 様 白築 俊彦 様 白築 秀美 様 常石造船株式会社 様 広島大学歯学部 同窓会広島県支部 様 山本 佳史 様 石原 舜三 様 医療法人社団長寿会 はたのハビリ整形外科 理事長 畑野 栄治 様 弁護士 緒方 俊平 様 広島市医師婦人会 様 田中 純子 様 西田 修実 様 力田 忠義 様 木村 榮一 様 中村 英雄 様 池永 孝 様 安永 裕司 様 茶山 一彰 様 相原 玲二 様 医療法人K&Clover 理事長 小林 健二 様 株式会社中国新聞社 代表取締役社長 岡谷 義則 様 株式会社内藤建築事務所 代表取締役 川本 雄三 様 株式会社ユニサス 代表取締役会長 松村 公市 様 神谷 研二 様 河原 能久 様 北村 拓也 様

2022年2月から2022年5月までにご寄附をいただいた方

●100万円以上	●100万円未満							
株式会社 サタケ 様 「学賞」 池田 英明 様 「学賞」 株式会社不二ビルサービス 代表取締役 濱野上 隆志 様 「名誉校友」	広島ロータリークラブ 様 「名誉校友」 田中電機工業株式会社 代表取締役 田中 秀和 様 広島大学歯学部同窓会 様 松川 博之 様 「名誉校友」							
医療法人社団 浜中皮ふ科クリニック 理事長 浜中 和子 様 「名誉校友」 広島大学歯学部同窓会 広島県支部 様	医療法人社団伯英会 のぞみ整形外科 理事長 金田 瑛司 様 片木 晴彦 様 公益財団法人 浦上奨学会 理事長 浦上 浩 様							
河野 修興 様 「名誉校友」 佐々木 元 様 登田 隆 様 「名誉校友」 早川 武敏 様	広島大学 歯学部歯科 補綴学第一講座 同門会 様 丸正産業株式会社 代表取締役 高羽 謙 様							
●100万円未満								
田妻 進 様 広島市医師婦人会 様 横崎 元男 様 株式会社総合科学部 同窓会 様 渡邊 篤 様 株式会社総合設備 コンサルタント 代表取締役社長 砂川 達也 様 川尻 武信 様 広島霞職員 宿舍会計 様 折出 里子 様	広島大学保健学 同窓会晩霞会 会長 高橋 真 様 部谷 正人 様 真鍋 英喜 様 吉川 成美 様 相原 総一郎 様 石通 宏行 様 一般社団法人 人生安心 サポートセンターざらり 代表理事 橋口 貴志 様 伊藤 彰浩 様	井藤 久雄 様 江本 知正 様 大演 紘三 様 迫田 勝明 様 大膳 司 様 田河 雅威 様 難波 英子 様 西田 修実 様 西原 孝雄 様 牧野 啓昭 様 宮本 博子 様 岡村 清治 様 佐々木 敦紀 様 久永 洪 様	三原 祥嗣 様 医療法人諄祐會 中村 歯科 様 岡田 賢 様 坂詰 貴司 様 竹田 幸男 様 鳥居 朋子 様 南部 広孝 様 平田 悦江 様 古橋 道子 様 株式会社 ニシキプリント 様 木田 徳司 様 清水 栄治 様	下中 正司 様 仲川 彰一 様 樋口 輝昭 様 吉田 ゆかり 様 佐藤 利行 様 肥後 盛洋 様 愛介護タクシー 小林 彰 様 丸丸 壽美 様 朝原 奈津枝 様 荒本 徹哉 様 大西 研作 様 大西 久雄 様	小笹 正三郎 様 河上 敏浩 様 川口 敏明 様 菊間 秀樹 様 北澤 あけみ 様 木下 康之 様 兼原 兵二郎 様 小谷 直 様 阪口 祐彦 様 佐藤 崇文 様 丸田 考志 様 三浦 省五 様 水口 英樹 様 水島 美代子 様 旨森 章雄 様	田中 達也 様 渡守武 弘子 様 中島 千恵 様 中津 啓 様 長谷川 公一 様 平川 裕 様 福島 律子 様 藤谷 義信 様 松本 千賀子 様 丸田 考志 様 三浦 省五 様 水口 英樹 様 水島 美代子 様 旨森 章雄 様	屋敷 太郎 様 安永 実 様 山田 幸正 様 山田 稷 様 NPO法人 令和花のチカラ 研究所 様 児玉 匡敏 様 石谷 絢 様 上田 裕史 様 大賀 裕見子 様 川口 美紀 様 神田 篤 様	栗栖 史匡 様 塩本 文夫 様 嶋田 浩美 様 白川 志保 様 藤岡 秀男 様 山下 浩 様 山本 勝 様 大守 美香 様 岸本 紀昭 様 山住 誠 様 飯塚 保久 様 東山 晃士 様 小原 功士 様

冠事業基金

(2022年5月現在)

2015年度から新たに、寄附をいただいた方のご芳名などを冠して、寄附者様のご厚意が見える形にした「広島大学冠事業基金」を創設しました。寄附方法は、一口5万円の毎月の継続寄附で、当面は外国人留学生への奨学金と日本人学生への海外留学資金に活用します。

医療法人S.R.C. 中光整形外科リハビリクリニック 院長 中光 清志 様 医療法人エム・エム会 理事長 白川 泰山 様 医療法人おち眼科医院 理事長 越智 温子 様 医療法人K&Clover 理事長 小林 健二 様 医療法人KOC 金谷整形外科クリニック 理事長 金谷 篤 様	医療法人社団楓会 林病院 理事長 林 淳二 様 医療法人社団慈恵会 いまだ病院 院長 大杉 健 様 医療法人社団仁慈会 理事長 安田 克樹 様 「名誉校友」 医療法人社団スマイル 博愛クリニック 理事長 高杉 啓一郎 様	医療法人社団清流会 理事長 永井 賢一 様 医療法人社団伯英会 のぞみ整形外科 理事長 金田 瑛司 様 医療法人社団マッキー 理事長 松木 啓 様 医療法人社団まりも会 ヒロシマ平松病院 理事長 平松 廣夫 様 「名誉校友」 医療法人昭和 原田整形外科病院 理事長 原田 昭 様	医療法人せいざん 青山病院 院長 大村 泰 様 医療法人明笑会 理事長 安本 正徳 様 オタフクソース株式会社 取締役会長 佐々木 直義 様 「名誉校友」 越智 光夫 様 「名誉校友」 三嶋 弘 様 「名誉校友」 株式会社紀陽 代表取締役社長 寒川 起佳 様	株式会社総合広告社 代表取締役副会長 坪井 高義 様 株式会社にしき堂 代表取締役社長 大谷 博国 様 株式会社 日本クワイメイトシステムズ 代表取締役社長 松尾 則宏 様 株式会社バルコム 代表取締役 山坂 哲郎 様 株式会社やまだ屋 代表取締役社長 中村 靖富満 様 坂下 勝 様 「名誉校友」	佐藤 利行 様 「名誉校友」 田中 純子 様 戸田工業株式会社 取締役社長 實来 茂 様 猫本 宏司 様 平尾 泰保 様 「名誉校友」 弁護士 緒方 俊平 様
---	---	---	--	--	---

ご芳名は、公開についてご承諾いただいた方を掲載させていただいています。掲載している情報は、ご寄附当時のものです。「特別校友」の称号については、誌面の都合により割愛させていただきました。

クラウドファンディング

「#ようこそ広大プロジェクト 地元食材で学生生活の始まりを支えたい！」(5月23日から6月30日までの間で実施)に
お寄せいただいたメッセージ

- この時代の大学生生活を乗り越えていった学生たちこそ、日本の活力になると信じています。
- 新入生も、このような温かい支援を受けたら慣れない新生活の励ましになります。私の息子もお陰様で4年生となり
今では広島での大学生生活を謳歌しています。今後もこのような活動を続けていってください。
- 昨年、我が子がこの支援を受けて大変喜んでいました。一人暮らしは大変なこともあると思いますが、頑張ってください!
- 応援される側も応援する側も元気になるプロジェクトですね。頑張ってください!

クラウド
ファンディングに
ついてはこちら





キャンパス
今昔

学食

昼休みになると、おいしいごはんを求めて多くの学生が集う食堂。約70年前の大学開学当時は米飯の販売ができなかったため、学生たちは主にパンやうどんなどを食べていたそうです。現在では3キャンパス合わせて12店舗の学生向け食堂が営業しており、和食から洋食まで好きなメニューを選べるカフェテリア方式が主流になっています。5月からはカレーなどのキッチンカーも構内に出店し、にぎわいを見せています。安くてボリュームのある学食は、いつの時代も学生の強い味方。しっかり食べて、キャンパスライフを楽しんでくださいね。



広島大学の昔の写真を募集します。

青春を過ごした思い出の場所や、当時の雰囲気を感じられる風景など、ご自宅に眠る広島大学の写真を、エピソードと共にお送りください。読者の皆さんと一緒に昔を懐かしみましょう。ご応募はP28のHU ism投稿フォームまで。



100年後にも世界で光り輝く大学へ

広島大学



編集・発行：広島大学 広報室

〒739-8511 東広島市鏡山1-3-2 TEL:082-424-4383 FAX:082-424-6040

E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

<https://www.hiroshima-u.ac.jp>

